

議 長	副議長	局 長	課 長	副課長	係 長	係 長

委員会行政視察調査報告書

令和7年6月20日

三田市議会議長 様

生活地域常任委員会委員長 幸田 安司

福田 佳則

長谷川 良果

大西 憲司

坪之内 幸司

木村 雅人

関口 正人

随行者 都市整備部交通政策課課長 _____ 田中 直樹

随行者 議会事務局議事総務課庶務係長 _____ 田辺 達也

本委員会が実施いたしました行政視察の結果を下記のとおり報告します。

- 1 実施日 令和7年5月13日（火）～14日（水）
- 2 視察先 5月13日 広島県呉市
【次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験について】
5月14日 山口県周南市
【徳山駅前賑わい交流施設について】
【徳山駅前賑わい交流施設（施設見学）】
- 3 視察先対応者 (別紙のとおり)
- 4 添付資料 (別紙のとおり)
- 5 調査結果の概要及び所見 (別紙のとおり)

生活地域常任委員会 視察 広島県呉市 呉市役所

■視察参加者（◎委員長 ○副委員長）

〔議員〕 ◎幸田 安司、○福田 佳則、関口 正人、木村 雅人、坪之内 幸司、大西 憲司、長谷川、良果

〔随行者〕 交通政策課長 田中 直樹、議会事務局 庶務係長 田辺 達也

□■視察日時：令和7年5月13日 14:00～16:00

□■視察事項：次世代モビリティの導入に向けた実証実験について

□■視察対応者

呉市議会 中田 光政 議長

呉駅周辺事業推進室 島津江 康統 課長補佐

議会事務局 議会総務課 田中 暁子 主査

資料に基づき呉市の次世代モビリティの導入に向けた取組の説明をいただいた。

取組の背景

- ・呉駅周辺地域は、そごう呉店跡地の再生や駅前広場の老朽化・機能低下が課題
- ・現在、交通まちづくりとスマートシティの拠点形成を目指す「呉駅周辺地域総合開発」を推進中
- ・そごう呉店跡地での複合施設（民間）とバスタプロジェクトの一環として呉駅交通ターミナル（国）を一体的に整備予定
- ・地域全体を総合交通拠点として捉え、市全体の交通まちづくりの起点となる、次世代モビリティにも対応した機能整備を推進することから、令和元年度より「次世代モビリティ導入に向けた交通社会実験」を継続的に実施

これまでの取組

- ・令和元年度
車両 燃料電池バス（水素バス）
内容 次世代モビリティ導入への機運醸成
非常電源機能の体験
- ・令和2年度
車両 自動運転バス
内容 自動運転車両が市街地走行するための課題抽出
一般交通への影響検証
- ・令和3年度
内容 自動運転車の走行環境整備に向けた調査検討（電波調査、道路側からの支援検討など）

- ・令和 4 年度
車両 自動運転バス
内容 自動運転車の走行環境整備(自動運行補助施設、磁気マーカーの効果検証など)
- ・令和 5 年度
車両 NAVY ARMA
内容 回遊性向上実証事件
デッキ上における安全走行に向けた検証
- ・令和 6 年度
車両 NAVY EVO
内容 自動運転車・歩行者が混在する賑わい空間の実現に向けて更なる検証を実施

[質疑]

Q 次世代モビリティの安全対策について

A 右折支援やバス停出発支援、レンガ通りで行ったスマート道路舗など歩行者に注意喚起するようしている。また、国土交通省の広島国道事務所と連携した事業を行っているので、国土交通省にも安全対策を行ってもらっている。

Q 市民の反応について

A 長期間では行っていないが継続しているので、市民の反応もいい。環境さえ整えられれば実装できる雰囲気にはなってきている。

Q 料金設定や今後のサービスについて

A 実証実験では、無料で行っているので、運賃などは考えられていない。今の路線バス並みの料金しか貰えないかなあと思っている。路線バス並みの運賃では、運営は難しいと考えている。NAVY ARMA や NAVY EVO は、多目的なバスなので移動店舗やサービス、広告収入など併せてと思っています。

Q 自動運転等先進技術実証・実装についてどの程度進んでいるかについて

A 実装については、まだまだの状況です。ただ、交通ターミナルができるタイミングが節目になるのではないかと考えています。

Q 今後の課題および展望について

A 課題としては、呉市が主導で行っているが、本来は交通事業社と一緒に組んで行っていないので、実装するとなると路線バスの広島電鉄との調整がどうなるのか。

また、呉市はタクシー事業社に生活バスも運行してもらっている所以、その辺りの調整が必要だと考えている。

Q 実証実験の費用について

A バス運行は、主体である呉市です。併せて右折支援や発射支援などは、国土交通省です。また、大学や呉高専は、別途研究費などで出してもらっている。

令和 5 年度までは、単独の市費 2000 万円ほどで、令和 5 年～7 年までは、3000 万円ほど(1/2 補助)で駅前整備事業から出している。

Q 実証実験での市の体制について

A 呉駅の総合開発の方で次世代モビリティの実証実験を行い。公共交通は、交通政策課が別で行っていて、いつ一緒になって行っていくか検討が必要です。

[所見]

このたび、生活地域常任委員会では広島県呉市における次世代モビリティ導入に関する先進的な取り組みについて行政視察を実施した。視察を通じ、同市が自動運転技術、スマートインフラなどの分野で、都市の特性を踏まえた実証的かつ実効性の高い施策を推進していることを確認することができた。

特に印象的であったのは、自動運転 EV バス「NAVYA ARMA」による公道実証実験である。呉駅前から商店街「れんがどおり」までの約 2km という現実的なルート設定の中で、一般市民が試乗できる機会が設けられ、社会実装に向けた受容性の確認と課題抽出が図られていた。車両の性能のみならず、運行管理体制や地域住民との協働といった視点からも非常に有意義な事例であった。

また、スマート道路標識や LED 表示板といったスマートインフラの導入も、安全性向上に資する先進的な取り組みである。歩行者と自動運転車両が共存する空間を前提に、視認性の高いインフラを配置し、誰もが安心して利用できる交通環境の構築を目指している点は、今後のまちづくりにおいて重要な視点となると感じた。

さらに、呉駅前の再開発と連動した推進は、公共交通機関の利便性向上だけでなく、観光振興や地域経済の活性化にも寄与しており、交通施策と都市計画との連携の好例として学ぶべき点が多い。国の「バスタプロジェクト」を活用した広域的かつ多様なモビリティの接続は、人口減少や高齢化が進む地方都市において極めて示唆に富むものである。

呉市の取り組みは、単なる先端技術の導入にとどまらず、地域の課題や地形的特性に即した柔軟な対応と、実装に向けた丁寧な検証がなされており、今後の本市の施策検討にも大いに参考となるものである。三田市においても、高齢化社会に対応した交通サービスの在り方や、地域住民が主体的に関われるモビリティの構築について、より具体的な検討を進めていく必要性を再認識した視察であった。

(坪之内幸司)

生活地域常任委員会 視察 山口県周南市 周南市役所「徳山駅前賑わい交流施設」

■視察参加者 (◎委員長 ○副委員長)

[議員] ◎幸田 安司、○福田 佳則、関口 正人、木村 雅人、坪之内 幸司、大西 憲司、
長谷川 良果

[随行者] 交通政策課長 田中 直樹、議会事務局 庶務係長 田辺 達也

□■視察日時：令和7年5月14日 13:30~15:30

□■視察事項：駅ビルをにぎわい交流複合施設として整備した取組について

※施設見学「徳山駅前賑わい交流施設」

□■視察対応者

周南市議会	井本 義朗 副議長
中心市街地活性化推進課	中村 充孝 課長
中心市街地活性化推進課	袋谷 康治 担当係長
中心市街地活性化推進課	岩岡 真理子 担当

■視察概要および質疑

[視察概要]

1. 周南市概要

人口：133,917人（令和7年3月末日現在）

面積：656.09 km²

市政施工：平成15年4月21日

議員定数：29人

2. 視察概要

◆徳山駅周辺整備事業

平成17年2月 徳山駅周辺整備構想

平成19年8月 徳山駅南口エスカレーター棟供用開始

平成20年11月 徳山駅周辺デザイン会議設置

平成21年12月 徳山駅北口駅前広場、南口駅前広場
及び南北自由通路基本計画

平成24年5月 徳山駅ビル跡地活用方針検討会議

平成25年3月 周南市中心市街地活性化基本計画の認定

平成25年5月 中心市街地駐輪場整備計画

平成25年11月 新たな徳山駅ビル整備基本構想
基本構想の実現に向けた共同声明

平成26年9月 徳山駅南北自由通路及び橋上駅舎供用開始

平成28年8月 CCCを指定管理者に決定

平成 30 年 2 月 徳山駅前賑わい交流施設及び徳山駅前図書館供用開始
令和元年 11 月 徳山駅北口駅前広場供用開始
令和 3 年 3 月 徳山駅南口駅前広場供用開始

◆徳山駅周辺デザイン会議

目的 徳山駅周辺整備事業にかかる基本計画及び景観について、
総合的に検討し、円滑に推進するため

所掌事務 徳山駅周辺の基本計画策定に関する事項
徳山駅周辺の景観デザインの方向性に関する事項など

構成 学識経験者・経済団体・市民団体・建築士会・
交通事業者・オブザーバー(関係行政機関等)等

会長 篠原 修 東京大学名誉教授

副会長 羽藤 英二 東京大学大学院教授

開催状況 平成 20~22 年 徳山駅周辺基本計画,基本設計 (6 回開催)
平成 24~25 年 新駅ビル基本構想(4 回開催)
平成 26 年 新駅ビル基本設計
平成 28 年 北口駅前広場設計等(2 回開催)

◆賑わい交流施設整備事業

徳山駅前賑わい交流施設検討等の経緯

平成 24 年 5 月 徳山駅ビル跡地活用方針検討会議
6 月 意見書
10 月~ 徳山駅周辺デザイン会議

平成 25 年 3 月 バブリック・コメント
5 月 新たな駅ビル整備基本構想(素案)
11 月 新たな徳山駅ビル整備基本構想
CCC と共同声明

平成 26 年 1 月 基本・実施設計業務委託契約
整備イメージ発表
8 月 徳山駅周辺まちづくりシンポジウム

平成 27 年 6 月 基本・実施設計業務委託完了

平成 28 年 8 月 CCC を指定管理者に決定

平成 30 年 2 月 開館

◆賑わい交流施設整備事業

構成施設：徳山駅前図書館、飲食施設、交流室、まちなか共創センター等

建築費：約 27 億 6400 万円 等 計約 55 億 1500 万円

指定管理料：1 億 6160 万円 (令和 6 年)

来館者数：当初目標 年間 120 万人

平成 31 年：200 万人 令和 2 年：400 万人 令和 5 年：1000 万人

[質疑]

Q：駅東側のマンションや商業施設の事業主体は市なのか、市街地再開発事業でやっているのか？

A：第 1 種市街地開発事業の民間主導で実施している。（組合自体は昨年解散している）

Q：マンションの施工事業者はどこになるのか？

A：藤田建設と洋林建設、澤田建設の共同事業体になる。

Q：マンションは何戸あるのか？

A：100 戸。

Q：商業施設 1 階が比較的閑散としているが、何か対応は考えているか？

A：昨年 4 月にオープンしたばかりで、100%埋まっていない。

まだ、建設中の箇所もあり、今後埋まっていくことを期待している。

Q：商業施設は指定管理で運用している？

A：地元の管理会社が運営している。

Q：市との補助金などの関わりは？

A：市からの補助金などはなし。

Q：徳山駅前図書館の目的外使用の部分を詳細に教えてほしい。

A：蔦屋とスターバックスが使用している部分に関しては、行政施設の目的外使用となるので、その販売部分の費用を目的外使用料という形で指定管理者から市に支払ってもらっている。

Q：市民の利用状況に関して、10代 20代 30代の方の使用割合が多いが、過ごしやすい空間にすることで若い方の使用が増えている実感はあるか？

A：今までは駅前に若者が留まるような施設がなかったため、本施設で賑わいが生まれたと考えている。3階に勉強用のスペースがあるが、平日も高校生などの使用で埋まっている。

Q：徳山港が近くにあるが、一般の方も使用される港なのか？

A：九州や有人離島をつなぐフェリーが就航している。

Q：交通結節として、港と駅を将来的につなげていきたいという考えはあるのか？

A：徳山駅は新幹線のぞみが停まる、日本で一番海に近い駅になるので、観光面でも港側に人の流れをつくりたいと考えている。そのため駅の南北に自由通路を改修した。

Q：駅周辺の整備が、今後の期待として市全体の賑わいが広がっていくことを期待しているか？

A：駅北側の文化ゾーンにどうつないでいくのか、駅近くの商店街にどうやって賑わいを広げていくのかなどの課題もある。滞留時間をどう延ばしていくのか等も検討しながら、まちづくりを進めている。

Q：駅前図書館を新設しているが、市中心部には別に中央図書館がある。図書館を 2 つにすることに対しての意図は？また、棲み分け等はどうしているのか？

A：代官山の図書館などの居心地がいい空間として工夫している施設を参考にしている。

従来の図書館機能だけではなく、居心地のいい空間としての図書館の需要があると考えて

おり、中央図書館は従来型の図書館、駅前には居心地がいい空間として、別のコンセプトで棲み分けを考えている。

Q：駅前図書館は貸し出しと販売、両方とも指定管理で実施している？

A：その通りです。

Q：中央図書館は市の管理、駅前図書館は指定管理だが、市の図書館機能全てを指定管理する考えはなかったのか？

A：コンセプトが違い、それぞれで運営のノウハウがあるため、駅前図書館のみを指定管理とする方法を選択している。

[所感]

今回、山口県周南市の「徳山駅前賑わい交流施設」を視察し、中心市街地の再活性化と市民交流の促進を目的とした同施設の先進的な取り組みに触れることができ、大変有意義な機会となりました。

同施設は、旧徳山駅ビル跡地という都市の中心に立地しており、図書館、カフェ、書店、飲食店、交流スペースなどを一体化させた複合施設として整備されています。民間事業者であるカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）が指定管理者として運営を担い、利用者目線に立った質の高いサービスの提供が行われている点が特に印象的でした。民間のノウハウを活かしながら、公共性との調和を図っているその手法は、今後の公共施設の在り方に一石を投じる好事例といえます。

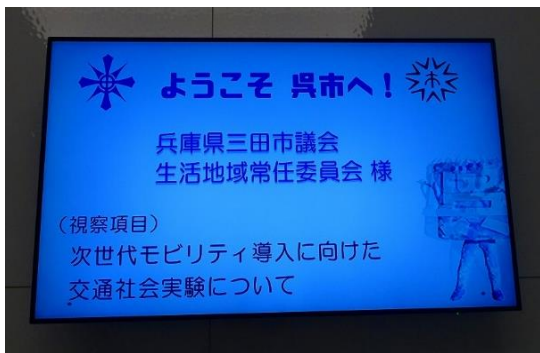
施設内には多様な世代が滞在できる空間が整えられており、1階のカフェや書店、飲食店は買い物客やビジネスマン、観光客などに憩いの場を提供し、2階・3階の図書館や共創センターでは、子育て世代や学生、地域活動団体が活発に利用している様子が見られました。単なる図書館機能にとどまらず、「まちの交流・学びの拠点」としての役割を担っており、多様な市民ニーズに応える設計思想と柔軟な運営方針が随所に感じられました。

また、施設整備には国の交付金を活用し、約55億円の総事業費が投じられており、将来的には駅前地区全体の再開発とも連動し、住宅やホテル、商業施設などの整備が進められる計画も進行中です。こうした一体的な都市整備によって、中心市街地のにぎわい創出と経済活性化が持続的に図られている点は、地方都市の再生モデルとして非常に参考になります。

三田市においても、中心市街地の活性化や市民交流の促進は喫緊の課題であり、多様な機能を有機的に結びつけた施設整備や、民間との協働による運営モデルの導入は、今後のまちづくりにおいて大いに活かせる知見であると感じました。市民の暮らしに寄り添い、まちに活力をもたらす施設づくりの在り方を再考する上で、本視察は極めて有益なものであったことを申し添えます。

（文責：大西憲司）

5/13生活地域常任委員会行政視察写真（広島県呉市）



呉市議会事務局フロア



呉市議会議長あいさつ



委員長あいさつ



呉市からの説明(交通モビリティ導入)



呉市からの説明(交通モビリティ導入)



呉市議会議場見学



呉市議会議場 集合写真

5/14生活地域常任委員会行政視察写真(山口県周南市)



周南市議会事務局フロア



周南市議会副議長あいさつ



委員長あいさつ



周南市からの説明
(徳山駅前賑わい交流施設)



周南市からの説明(徳山駅前賑わい交流施設)



徳山駅前賑わい交流施設見学



徳山駅前賑わい交流施設見学



徳山駅前賑わい交流施設見学



徳山駅前賑わい交流施設見学